

2026年3月31日 第165回運輸政策コロキウム

「整備新幹線建設に伴う並行在来線の現状と地域交通としてのあり方」

宿利会長 開会挨拶

皆様、おはようございます。運輸総合研究所会長の宿利です。

本日は、ご多用の中、早い時刻からこちらの会場にお運び頂き、また、オンラインでも大変多くの皆様にご参加いただいております。誠にありがとうございます。

運輸政策コロキウムは、31年前の1995年に第1回目を開催して以来、当研究所の研究員が研究調査の成果を報告発表し、有識者からコメントをいただき、そして、皆様と共にそのテーマについて考えを深めていくという目的で開催してきております。前々回第162回と前回第163回のコロキウムは、ワシントン国際問題研究所の研究員からの報告でしたので、久しぶりに本部の研究員から報告を行う回となります。

さて、本日の運輸政策コロキウムでは、「整備新幹線建設に伴う並行在来線の現状と地域交通としてのあり方」というテーマについて、皆様とご一緒に考えてみたいと思います。

並行在来線については、整備新幹線の建設に際して、沿線自治体からの同意を得て、JR旅客鉄道会社の経営から分離することが、整備新幹線の着工条件のひとつとなっています。こうして経営が分離された全国各地の並行在来線の多くは、利用客が少ない中で、地元の自治体が費用負担をしつつ、如何に鉄道路線を維持するかという課題に直面しているという現状です。一方で、JR貨物が並行在来線を使用して鉄道貨物輸送を行っていますから、旅客の利用が少ないということをして路線の廃止の議論をするわけにはいかないわけで、貨物調整金という助成

を得ながら並行在来線の維持が図られているという側面があることは確かです。しかし、もう少し深く考えてみますと、並行在来線を貴重な交通インフラ・交通手段として捉えて、地域交通の中でどう活用していくかということをもっとしっかり考えていかなければならない時期が来ているのではないか、ということです。本日の伊達研究員の問題認識もそういうことですし、私自身も常々そう思っています。

さて、私は、昨日の夕刻米国から戻ってまいりました。先週、米国時間の 26 日午後に、ワシントン D.C.において日米鉄道シンポジウムを開催しました。日本では 27 日の早朝の時間でしたが、その時間にオンラインで、あるいは後刻に録画を御覧になった方もいらっしゃると思います。御覧になった方は、米国でも鉄道についての考え方や取組み方が変わってきているということを実感されたと思います。私も、今回滞在中週末に、ニューヨークを回って、米国の鉄道の直近の状況に接してきました。都市間鉄道では、ワシントン D.C.~ニューヨーク~ボストンの北東回廊に、AMTRAK が ACELA という米国唯一の高速鉄道として認識されている特急を走らせていますが、ここに最新の ACELA の車両が最近供用開始されました。今回、ワシントン D.C.からニューヨークまでその最新車両に 3 時間弱ほど乗る機会を得ました。車両自体は随分きれいになっていましたが、スピードや揺れその他から、まだインフラが第 1 級の高速鉄道というわけにはいきませんでした。しかし、トランプ政権の中でも鉄道あるいは公共交通が実はかなり重視されているということが、日本ではあまり知られていないかもしれませんが、鉄道やバスなどの公共交通、メトロがその典型ですが、について、安全で、かつ手頃で使いやすい運賃(affordability)ということが重要な施策として位置づけられ、取組みが行われているということをご承知いただければと思います。また、日米鉄道シンポジウムの動画配信をぜひ御覧いただければと存じます。言うまでもなく、欧州では、既に軸足を鉄道に移しています。インド・東南アジアでも、当研究所が度々ご紹介しておりますように、鉄道の整備が政策課題の中

で最も重きを置かれています。世界では、もっと鉄道を活用するために、必要な鉄道整備に資金を投じ、同時に、安全性と利便性を高めていこうというのが大きな趨勢となっています。その中で、日本は鉄道のネットワークや利便性において最も優れていた国として、鉄道に今どのような目を向けているのかを振り返ってみる必要があるのではないか、と私は考えています。

本日報告する当研究所の伊達真生研究員は、大学院で地域計画を専攻した後、2013年に鉄道運輸機構に入構以来、広く整備新幹線の建設業務に携わり、2024年から当研究所に研究員として出向して、大いに活躍してもらっています。その中で、当研究所で緊急提言「地域交通制度の革新案」を昨年6月にとりまとめましたが、その検討委員会を運営するチームに入って深く研究を進めてきました。本人はこの研究を通じて、さらにこのテーマの研究を深めたいとして取り組みを進め、本日はその締め括りとして報告をいたします。

また、本日コメンテーターをお願いしている金山洋一主席研究員・研究統括も、国鉄、日本鉄道建設公団、運輸省への出向、そして鉄道運輸機構で鉄道の実務経験が大変豊富で、さらに富山大学でも教鞭をとっています。本日は、富山大学の立場と研究統括の立場のいずれか判別が難しいのですが、コメンテーターとしてその経験と知見を生かしていただきたいと思います。後半では、当研究所の屋井所長をモデレーターとした登壇者同士のディスカッションにより議論を進めてまいります。また、ご参加いただいている皆様との質疑応答の時間も用意しておりますので、有効にご活用いただければ幸いです。

本日のコロキウムが、ご参加いただいた皆様にとりまして、並行在来線の問題、あるいは、地域の交通を考えるときの鉄道のあり方について、日本においてどのように考えるべきなのかに関して、新たな気づき、示唆、あるいは何らかの手掛かりを提供することができたら、主催者としては幸いと思っております。本日は多くの方にご参加いただき、誠に有難うございます。

(以上)